

南米の旅 (その2 チリ編)



2月10日(月) アレキパからアリカへ

6時半起床、PCでメールなどのチェック。関東地方は近年稀にみる大雪の後遺症で大変なようだ。

Nさんのブログを見ると、エマーソン君とはミラフローレスのホテルに泊まるかどうかで折り合いがつかなかったとのこと。結局、彼女は予約していた日本人宿に行き、別々に行動することになったようだ。いずれは彼の住むワンカーヨに行くということなので、そこで再会できるだろう。

ホテルの支払は、ドルをソルに交換して現地通貨で払った方が有利だ。それは公の交換レートに比べ、実勢レートがドル高で1\$=2.75ソルとなっているためだ。フロントでさらに30ドル両替してほしいという、ホテルより両替商で交換した方がいいと教えてくれた。両替所はすぐにあった。両替商の通常レートは1\$=2.8ソルが相場だ。これはリマも同じである。しかし、ホテルで両替するのと比べてたった0.05の差なので30ドルで1.5ソル(60円)しか変わらない。この両替に30分かかれば、旅行者にとって時間の方が高くつく。

ドルを両替してソルで支払いを済ませ、タクシーでバスターミナルに向かう。ホテルの人に訊くと、ターミナルまでは7~8ソルとのこと。タクシーは何台もいて、ホテル前で1台捕まえるとその後ろからこちらに乗れ!と大声で呼ばれる。すごい競争なのだ。

フローレス・バスターミナルまでは15分で6ソルだった。窓口でタクナまでの料金はいくらか訊くと、20ソルとのことなので、昨日買ったチケットの17ドルというのは倍以上の値段でずいぶん高い手数料をとられたことになる。しかし、当日バスターミナルでチケット買うのは慣れない旅行者には難しいし、満員のときは予定が狂ってしまうこともある。

まだ出発には1時間以上ある。初めてのところに時間ギリギリは心配なのでどうしても早めに行動してしまう。見ていると、出発するバスより到着するバスの方がずっと多い。出発を見ていると30分ほど遅れて出るバスもあったので、そのくらいの遅れは当たり前なのだろうと思っていた。タクナ行きの出発時刻10時になっても一向に「タクナ」と表示されたバスが来ないので、どうなっているのか不思議だった。バス乗り場近くに移動して注意深く見ていたが、10時10分になってもまだ来ない。30分くらいの遅れは可能性があるので辛抱強く待っていた。

すると目の前に停車しているバスの整理係りの人が“TACNA”と言っているようだ。“タクナ行きが間もなく出発します、乗る人はいませんか!”という呼び声だったのだ。バス前面に行き先の表示がなかったのが分らなかったが、目の前にいたバスがタクナ行きだったのである。さっき到着したバスがそのまま運行するらしい。間一髪乗れて良かった。これも近くにいたから分かったので、ここに移動していなかったら乗り逃がしていたかも知れない。1時間以上前に来て乗り損ねたら泣くに泣けない。

バスは10時15分に発車した。タクナへはパン・アメリカン・ハイウェイをひたすら南下するのだが、このバスから見る景色はこれまでに見たこともない素晴らしいものだった。

月か火星かと思わせる景色が次から次へと現れてくる。山あり谷あり、岩山であったり砂漠のようだった。



アレキパのバスターミナル(チケット売り場)

たり道路がカーブしているところでは本当に景色の変化が楽しめた。

平坦な砂地のところに、何キロ何十キロにわたって飾り石のような石がずっと並べられているのは何だろう？時々二段重ね三段重ねがあり、規則正しく並べられた石が延々と続いている。何かの“まじない”か“祈り”のしるしなのか？道路の近くにも、遠くにも道路と並行して延々と続いているのである。

バスに乗った最初のころはウトウトしていたが、途中から飽きることなく景色に見とれていた。時々動画を撮ったりして、初めて見る変化に富んだ景色を楽しんだ。片側一車線の道路がずっと一直線に前方に続いていて、そこを通る車がアリのように小さく見える。

バスは時々止まっては数人の売り子に乗せ、また走り始める。そんな景色に見とれているうちにタクナに到着。時刻は16：20分だったので、乗車時間は約6時間というところだ。着いたところはフローレス



アレキパータクナ車窓の景色（1）



アレキパータクナ車窓の景色（2）

というバス会社のターミナルで、チリ方面は国際バスターミナルから出るということだ。何人かに訊いてやっとわかった。石ころの道を重いバッグを引きながら国際バスターミナルに向かう。

ターミナル使用料を払い、アリカ行きのバスを探す。運よくアリカ行きのバスはすぐにあった。国境を越えるということでパスポートを車掌に預ける。訳も分からず乗り込んだバスは満員で、1つだけ空いていた最前列のイスに座った。

隣は太った女性で少々窮屈。パスポートを預けた車掌がもしこのバスに乗って来ないと大変なことになると心配していると、隣の女性が最後に乗ってくるから心配ないと笑顔で教えてくれた。

乗換にわずか20分、16時40分にバスはスタート。1時間ほど走るとペルーの出国検査。次に数分走りチリの入国検査である。一旦バスから全ての荷物を降ろし検査を受けるが、検査そのものはいたって簡単だった。やっとチリに入国。

隣の女性は、物価の安いペルーに買い物にきたという、アリカに住む笑顔の魅力的なチリ人の妊婦さんだった。おなかが大きく赤ちゃん用品の買い物をしてきたようだ。赤ちゃんは女の子。

入国管理事務所から20分ほどでアリカのバスターミナルに到着。ペルー時間で18時10分。両替をしてすぐにタクシーに乗りホテルを紹介してもらう。

1件目はだめだったが2件目、結構グレードの高いホテルだった。1泊目は25,000ペソの部屋で狭い。冷蔵庫付きでバスタブはなし。このあたりのホテルはほとんどシャワーしかないのが一般的。ホテルはInti-Jaya（インティ・ハヤ）というホテルでガイドブックの最初に載っているホテルだった。

明日のツアーの予約をするため、フロントの人に旅行会社を紹介してもらったが要領を得ず、調べて教えてくれたところは誤りだった。そこは高台で、旅行会社の事務所があるようなところではなく、結局アリカの夜景を見て帰ってきた。アリカを中心街はそれほど広くなく、中央に7月21日通り（21 de Julio）が通っていて店舗がずっと並んでいる。結局その中央通りにも旅行会社らしきものは見当たらず、予約ができないので明日のツアーは諦めざるを得ない。



アレキパータクナ車窓の景色（3）

ホテル近くのレストランで夕食。これまでで初めて本格的な「レストラン」だった。エビ、イカ、ホタテ、シャンピニオン、玉ネギなどをクリームソースで煮込んだもので、絶品のおいしさだった。

明日は市内を見て回ることにしよう。これまでのハードスケジュールで疲れがたまっている頃でもあり、一日のんびりと過ごすことにしよう。

2月11日(火) アリカ

チリ時間がペルー時間より2時間進んでいることを知らずに、目覚めてメールのチェックとNさんのブログにコメントして、8時半になったので1階のレストランに朝食のために下りていった。

すると係りの人が朝食は10時までだという。「だって、今は8時半じゃないか」と言うと、壁に掛かっている時計を指さして「今は10時半ですよ」と言われやっと気付いた。そうか、チリとペルーは2時間も時差があったのか！何でもっと早く気付かなかったのだろう。それでも、レストランのおばさんがマンゴージュースとパウンドケーキを持ってきてくれた。

チリの第一日目はそんなことで始まった。経度にあまり差がないのに、2時間も違くと夜明けや日没の明るさにずいぶん違いがあり違和感がある。

今日はアリカの市内を歩いてみるつもりだ。まず魚市場に行ってみる。

昨日の夕方アリカに着いて少し街を歩いてみて、ホテルから市の中心部は10分ほどだった。その時は



アリカの港

夜7時と思っていたが、チリ時間では9時だったのだ。全く気付かなかった。結構遅い時刻に人気のないところを一人で歩いていたことになる。危険を感じることはなかったが、魚市場といっても規模の大きなものではなく、陸揚

げされた魚を捌いて小売している市場といったものだった。港には湾内を巡る遊覧船が出入りしてとても賑わっている。シイラ、クロダイのような魚、イサキのような魚、それとウニ、トコブシのようなものが売られている。買った魚をその場で料理して食べさせてくれるような店はなかった。

仕方がないので大衆食堂のような店に入り、朝定食(これしかない)を食べた。焼き魚はなくサバのフライだった。これに野菜、米とパンがついて1,800ペソ(360円：チリペソは0.2を掛ければ円になる)。

サバは揚げたて塩味で見た目よりずっと旨かった。

ホテルに戻り、昨日バスターミナルからホテルまで乗せてもらったタクシーの運ちゃん(Aldo Valcarce：アルド・バルカルセ)に電話で、「モロの砦」と「地上絵」にいくらで連れて行ってくれるか訊いてもらう。

電話で値段交渉をしようと思っていたがホテルに来るといふ。交渉の結果、2時間で20,000ペソのところを18,000ペソにしてもらい出発。

観光タクシーをお願いした形になった。モロの砦は街のどこからも見える岩山の上にある。すぐ目の前に見えるので簡単に登れそうだが、いざ車で行くとなると大回りして延々と坂道を上るのである。

夜7時と思っていたが、チリ時間では9時だったのだ。全く気付かなかった。結構遅い時刻に人気のないところを一人で歩いていたことになる。危険を感じることはなかったが、

魚市場といっても規模の大きなものではなく、陸揚



シイラが売られていた



朝定食

頂上には15分ほどで着いた。下から見るのと上から見るのでは大違い。崖の上からの眺めは素晴らしい。

この辺りはほとんど雨が降ることはないので、行けば必ず晴れて素晴らしい景色が見られる。

この地は以前ペルー領だったが、1880年の戦争でチリがペルーから勝ち取ったとのこと。遠くに見えるのはペルー領タクナあたりだろう。実に美しい海岸線だ。記念館の展示スペースには、ペルーとの戦いの時の行軍ルートなど、戦略について自慢げに紹介されていた。



この岩山の上にモロの砦がある



モロの砦からの眺め(1)



モロの砦からの眺め(2)



モロの砦からの眺め(3)

岩山に面したレストランで一休み。この海岸通りは爽やかな風が通り抜けとても気持ちいい。ただ、目の前に見える岩肌には割れ目が入り、地震があるとすぐに崩れそうだ。もし崩れれば岩が落ちてきてこの店な

つぎは地上絵。北の方向に15分ほど走る。もうすぐペルー国境というところだ。

小高い丘の北側の斜面に地上絵がある。ナスカの地上絵のように上空から見るような大規模のものではない。大小のリヤマがいくつも斜面に描かれ、ほとんど右側を向いているが左向きのもある。大きいのは親、小さいのは子供のようでリヤマの家族のように見える。

誰がいつどのようにして、何のために描いたものなのだろう？正面からと側面からの写真を撮る。

思ったより規模が小さかったので少しがっかりした。他にもあるということだが、「こんな感じ」ということがわかったのでよしとしよう。

アリカに戻り海岸まで乗せてもらってタクシーと別れる。ビーチには海水浴を楽しむ人がいたが、平日のためかそれほど多くはない。

海からの風は爽やかでとてもいい気持ち。ただ、太陽は暴力的な日差しで、陽の当たるところは猛烈に暑い。日焼けしたところがヒリヒリする。タクシーのアルドは陽の当たる左腕に黒い布を巻きつけて運転していた。遊歩道を歩いていたなら「腕時計に注意なさい！」と教えてくれる人がいた。

ペルーでは警戒していたが、チリは治安が悪くないという先入観があり用心していなかった。

朝食を食べて金を払うとき、私がポケットから紙幣を全部出して払ったので、店のおばさんが人前で金を見せないように注意してくれたことを思い出した。



地上絵(規模は小さい)

どひとつたりもないだろう。

タクシーのアルドが熱心に薦めてくれたサン・マルコス教会はすぐにわかった。ガドブックにも載って



サンマルコス教会



教会内部

いた。この教会はパリ・エッフェル塔の設計者エッフェルが設計したもの。茶色のラインが強調された、特徴あるカラフルで可愛い外観でおとぎの国の教会のようだ。鉄骨構造の専門家らしく鉄骨で設計されたことは教会の中に入ってみてすぐわかった。内観は茶と白、黒で統一され、細い鉄骨の隅々までデザインされ繊細さが表れていた。

今日の夕食はスーパーで買ってホテルで食べることにしよう。レストランだとなかなか思いどおりの味というわけにいかないことが多いのだ。

ホテルに戻り熱いシャワーを浴び、ゆっくりワインを飲みながら食事。PCでメールをチェックしソチオリンピックの結果などを見て、その後写真の整理をする。写真も撮りっぱなしでは後でわからなくなってしまうので、毎日整理しなくてははいけない。

2月12日(水) ラウカ国立公園ツアー

今日はラウカ国立公園のツアーに行く。7時25分ピックアップの車が来た。とても感じの良さそうな運転手兼コンダクターだった。今日は前回に比べ少人数のツアーで、メジャーなツアー会社「ラウカツーリズム」にしなくてむしろ正解だったかも知れない。

メンバーはカナダ人夫婦2組、彼らは定年退職組でパタゴニアに行ったりプエルトモンでオソルノ山に登ったりとなかなかアクティブな夫婦で、2か月間の旅をしているという。(フランス語を話すのでフランス人ですか?と訊くとカナダのケベック州とのこと)。

チリのバルディビアから来たというとても物静かで感じのいい青年。

褐色肌の大柄な若い女性。フランス語とスペイン語がペラペラで、どこの国の人か不明。

バスは8時ちょうどにボリビア国境を目指して出発。

まず最初に、リヤマが描かれている地上絵を見て(遠くからなので小さくしか見えなかったが)、次に古い教会を見るために Poconchile (ポコンチレ) という村に寄る。しかし、改修中で歴史的価値があるという教会の本来の姿を見ることはできなかった。

しばらく走り、山の斜面に長い棘を持つ珍しいサボテンが生えている場所がある。棘は長いもので10センチくらいあり確かに見たことのないサボテンだった。

10時に朝食。レストランではなく、集会場にテーブルを並べたようなところだった。コンダクターが運んできたフランスパンにハムとチーズを挟んだ簡単なサンドイッチを作ってくれた。飲み物はコカ茶で徐々に高度に慣らしていく。途中で絶景ポイントがあれば停車して写真を撮りながら進む。



長い棘のサボテン

アルパカの群れが車のすぐそばを通りかかった。



アンデス山中の深い谷



アルパカの群れ

14時ころチュンガラ湖に到着。

この湖と山の組み合わせは、ちょうど富士山と富士五湖を思わせるがより原始的な感じ。ビクーニャが何匹も見え、のどかで景色全体に調和がとれていて美しい。ここの標高は4,500mなので胸が苦しい。

ゆっくり深呼吸してゆっくり歩くがそれでも息苦しい。標高が高いので寒いと思い、ウインドブレーカーを持ってきたが半袖でだけで寒くなかった。

湿度が低く、爽やかな風が吹いてとてもいい気分だ。ここに1時間ほど滞在して帰途につく。

主道路から外れて細道に入り、しばらく行ったところにある薄暗いレストランで昼食。香辛料がきいた牛肉のソテーと米。肉はかなり固く味付けが塩辛かった。デザートはマンゴー。



ネバド・デ・プトゥレ山(5,830m)とチュンガラ湖

帰り道でも1,2か所絶景ポイントがあり停車して写真を撮った。

合計450kmの距離を12時間かけて回るツアーで、車に乗っている時間が長かったが、多くの素晴らしい景色を楽しむことができた。

ホテルに戻り、フロントで明日のSan Pedro Atacama (サン・ペドロ・アタカマ) 行きのバスを調べてもらったところ、21時30分発1本しかないとのこと。

今日、同じように21時30分発があれば今からならまだ間に合うのだが、今日の便はないという。

明日の21:30分発では遅すぎるのでルートを変更しよう。

最終的にアルゼンチンのSalta (サルタ) に行ければいいので、サン・ペドロ・アタカマは諦め南下してAntofagasta (アントファガスタ) に行こう。

サン・ペドロ・アタカマはいろいろ見どころがあり残念だが、ここ数日乾燥した岩山の景色ばかり見てきたので、ルートを変更しアントファガスタまで行きそこからサルタを目指そうと思う。

2月13日(木) アリカからアントファガスタへ

昨日の夜からまた腹の具合がよくない。せっかく冷蔵庫で冷やしていたものが満身に食べられず残念。トマトとワイン(小瓶2本)は持っていく。3泊して朝食が全く食べられないのは惜しいので、サンドイッチにして持っていくことにした。ホテルの支払いが1泊5,000円くらいに抑えようとしているが、

平均6,000円となり少しオーバー。タクシーに乗り行き先をバスターミナルと告げると、国内線と国際線があるという。島国の日本ではあり得ないので少し戸惑ったが、陸続きの国ではごく普通のことだ。

ターミナルには10分ほどで到着した。タクシーの運転手は私が Iquique (イキケ)に行くと言ったので、イキケには自分の長男が働いているというようなことを言った。あと娘さんが2人いて子供は3人持つ人が多く、それがいいのだとも言っていた。面白い理屈だと思い、自分は2人だと言うとそれは少ないと。

バスターミナルにはいろいろなバス会社の窓口があった。イキケまでしか行かないバス会社が多かったが、最後の窓口でアントファガスタまで運行している会社があった。

インターネットで調べた通り9時発の便があり、案ずるより産むが易しというのを実感した。計画を立てるのにインターネットで調べられるのはとても便利だ。

9:10分チリ北部の中心都市アントファガスタに向けて出発する。バスは昨日と同じ岩山を切り裂いたような谷に沿って走る。席の隣はアリカからイキケに警備員の仕事に通う初老の人だった。

日本人に近い顔をしているがチリ人だ。Valparaiso (バルパライソ)の生まれで2年前からアリカに住んでいる。ビルの警備員として週5日働いてアリカの家に戻るのだという。単身赴任をしているのと同じようだ。子供は4人とのこと。

途中、パスポートのチェックがあった。国内移動なのでパスポートは荷物入れに預けたバッグの中に入っている。手元にあったコピーを渡したがそれでも大丈夫だったようだ。パスポートチェックや道路工事があったりして時間がかかり、14時ころイキケに着いた。

イキケの街は思っていたより大きく、隣のおじさんに訊くと人口は60万人とのこと。バスは丘の上からイキケの街を見下ろしながら入っていくが、海と街が調和してとても美しく見え、印象深いイキケへのアクセスだった。



アリカ→アントファガスタ車窓の景色(1)



イキケ遠景

いた。しかし、途中の税関検査などに時間がかかったため何と！12時間、21時ようやくアントファガスタに着いた。それでも景色が楽しめたので12時間という時間はそれほど長く感じなかった。

バスターミナルでサルタ方面に向かうバスについて訊くと、何とナント！来週の水曜日までないという。

1週間後である。これではどうしようもないので計画を変更せざるを得ない。ホテルで新しい案を考えよう。ホテルに入ったのは22時近かった。

何も食べていないので夜の街に出る。ほとんどの店が閉まっっていて、適当な店が見つからない。仕方なく

隣のおじさんとは握手して別れた。バスはイキケで1時間ほど停車して15時ちょうどに発車。

イキケの街を出ると、右側に太平洋を見ながら美しい海岸線に沿って走る。私の座っている席は左側で、遮光カーテンを閉めている人が多くよく見えず残念。

1時間半ほど走ったところで税関検査があり、一旦バスから降りてすべての荷物の検査を受ける。国内のバス移動なのにチェックが物々しいことは意外だった。

再び走り出し、ひたすら海岸線を走り続けた。アリカ→アントファガスタ間はガイドブックでは10時間ほどとあったので、19時ころには到着すると思って



税関検査

ファストフード店に入り、シュラスコ（焼肉）のサンドイッチを注文したが、量が多く味もイマイチだったので半分残してしまった。包んでくれたので仕方なく持ち帰るが、ホテルに帰ってもどうせ食べないだろうと迷っていた。ちょうど道路に物欲しそうな浮浪者がいたので、袋ごと渡したらとても喜んでくれた。きっと腹を空かしていたのだろう。

ホテルに戻りルートの変更を検討。ここから北の Calama（カラマ）に戻り、サン・ペドロ・アタカマに行くのが当初の計画に戻す一番の現実的な案なのだが、チリ北部山岳地帯、砂漠地帯の様子もわかり充分満足したので、ルートを変えチリ中央部サンチアゴからアルゼンチンの Mendoza（メンドーサ）に入ることにする。

2月14日（金）アントファガスタ

まだ腹の調子が良くならない、何故だろう？ここからは飛行機でサンチアゴまで行き、サンチアゴからバスでアンデスを越えアルゼンチンのメンドーサに抜ける。

アントファガスタ→サンチアゴは便が多いし、サンチアゴからメンドーサのバスは一日一便はあるようだ。そう決めた以上は、とにかく今日サンチアゴまでの便を予約しなければならない。

旅行会社で今日の便で格安チケットが取れれば理想だが、当日は難しいかも知れない。

8時半にホテルを出てチケットを探す。Prat（プラット）通りは歩行者天国になっていて、歩いている



朝のコロン広場



プラット通り



「闘う市民」のモニュメント

とすぐ LAN 航空のオフィスがあった。

9時のオープンまでしばらくあるので、プラット通りを歩いてみる。“団結して闘う市民”を称えるモニュメントを見て戻るとちょうど9時。

待っていた何人かの人と一緒にオフィスに入る。いくつも窓口があり受付がいるのに前の人は誰も行かない。訊くと“私たちは仕事を求めて来たので面接を待っているが、あなたは窓口にいけばよい”という。お客ではなかったのだ。

サンチアゴまでのチケットの値段を訊くと予想していたより高い。片道409ドル、往復だと不

思議にも片道より安くて325ドルだった。インターネットで調べたのとほぼ同じ値段なので相場なのだろう。バスで行くのと5、6倍も違うが長時間のバスの旅は大変だ。

アントファガスタからだサンチアゴまでは24、5時間かかるので、体力と時間を考えたらやはり飛行機がよいだろう。18:35分の便を予約。結構満席に近く、空いているのは3席の真ん中の数席のみだった。これで予約が終わり一安心。

計画のフレキシブルさを考えて、フライトの予約を直前にすると結果的に高くつく。

さあ、予約が済んだので海の方に行ってみる。輸出港にしてはそれほど規模が大きくなく意外だった。



旧鉄道駅

一旦ホテルに戻りインターネットでサンチアゴのホテルを予約する。アパートの一室を宿泊用として貸すといった感じのホテル(アパートホテルというらしい)だ。今日のサンチアゴ到着は午後8時なので遅くはないが、夜遅く着くときはホテル予約システムで予約しておく方が安心で、結果的にリーズナブルな料金で泊まれる。空港へはコレクティーボを3時半に予約した。

11時半にチェックアウトして、フロントにバッグを預かってもらい街を歩く。

外は暴力的な暑さだ。直射光は肌を刺すように痛く感じる。中央市場に行ってみる。市の中心部はそれほど広くない。アントファガスタはチリ北部の中心都市ということだが、昨日通ったイキケのほうが大きいような気がする。中央市場はほとんどが肉を扱う店の集まりで、規模はさほど大きくなかった。

花の市場は別にあっただのでここは肉専門の市場ということかもしれない。コロン広場に戻る途中に中華料理店を2つ見つけた。中華を食べたいが、今日一日は腹の調子を考えて絶食しよう。水だけを少しずつ飲んで何とか喉の渇きを取りながら一日頑張ってみよう。

このまま治らなければ食べたいものが食べられず、旅の楽しみが半減してしまう。

中心街もほぼ歩いて様子がわかってきた。コロン広場の木陰のベンチに座って休んでいると、スピーカーからキューバ音楽やタンゴの比較的古い曲調の曲が流れてきた。

飛行機での移動は、日が近くなればなるほど予約が取りにくく値段も高くなるので、ここからはスケジュールを決めてできるだけ早めに予約を入れることにしよう。そうすればホテルの予約もでき、結果的にそのほうが確実で安心でき安上がりだ。3月2日の帰りの、Punta Arenas (プンタ・アレーナス) からサンチアゴの便の予約を入れようと再びLANのオフィスに行き、調べてもらおうと444ドルとのこと。これでは高すぎるので、もう一度自分で調べて安いチケットを探そう。もしかすると旅行会社でもっと安いチケットが見つかるかもしれない。サンチアゴで確認することにする。

18:35分発LA329便は快適だった。機内サービスもあった。コーヒーは街のコーヒーショップで飲むより日本のコーヒーに近くうまかった。サンチアゴ到着20:15分。窓から見えたのは乾燥した褐色の低い丘が続く景色だった。最初は珍しいと思っていたこの景色も最近は見慣れてきた。

空港から市内へは25kmも距離があり、コレクティーボ(乗合タクシー)で市内に入る。サンチアゴの街は非常に広いので、コレクティーボは3つの地域に分けて運行している。同じ地域に行く人がミニバスの定員(7名)集まらないと発車しない。他の地域に行く車はすぐに発車したが、私のいくセントロ地域(中心街)はなかなか集まらず、30分後(9時)にようやく出発。

今日はもうホテルは決まっているし、それほど急ぐ必要はないと思っていた。7人の乗客を乗せたミニ

もっと他のところに大きな港があるのだろうか？
歩いていると旧鉄道駅が見つかった。今はもう鉄道は運行していない。バスに押されて鉄道を維持するのは難しいのだろう。



街角のカラフルな建物



アントファガスタ中心街

バスは猛スピードで市内に向かう。プロだから運転は慣れていると思うが、そのスピードと車間距離、急ブレーキ、急ハンドルなど本当にヒヤヒヤものだった。

アパートホテル (DPC Amoblados) の所在地はサンフランシスコ通り 265 番地、市内に入り渋滞に巻きこまれて 10 時少し過ぎにやっと着いた。着いたところは確かにアパートで、入り口に管理人がいて入れてくれない。携帯で撮影した「予約票」を見せても全く受け付けない。前にあるインターネットカフェに無料の電話機があるからそこで電話しなさいという。部屋の電話番号をメモに書いて渡してくれた。

教えられたとおり電話するが、「その電話番号は現在使われていません、、、」的な自動音声が続くばかりで繋がらない。結局どうにもならないのであった。要するにここは普通のアパートで、想像するに予約があれば数日後の指定された日時に部屋を空けて泊まれるようにする、というようなものではないだろうか？でもこのアパート (ホテル) は、今朝予約システムで入力したら、きちんと予約ができたのである。何か特別なアクションが必要だったのかもしれない。

いずれにせよ、ここには泊まれないことがはっきりした。アパートの管理人にお詫びとお礼を言い、さてこれから今日の宿をどうするか？すでに 10 時半を回り、大きな旅行バッグを転がしながら数十メートル歩き交差点でタクシーを待つ。この時刻になるとなかなかタクシーも通らない。

待ちきれず、向い側の角で停車して休憩中のタクシーがいたので手招きで呼んだ。運よく乗せてもらえて、ガイドブックに出ていた近そうな Hotel Riviera (ホテル リビエラ) に行ってもらった。

すでに 11 時に近かったが、運よく空いてようやくホテルに入ることができた。タクシー運転手はとても親切で、荷物を積んだまま待っていてくれた。そのまま持ち去られてしまえば、呆気なく旅行は中止となるどころだった。料金はメーターで 1,410 ペソだったが、2,000 ペソ渡した。

このホテル リビエラは一泊 50 ドルくらいの中級ホテルだ。小さいバスタブが付いていて半身湯に浸ることができるのは有難い。従業員は親切で人懐っこい。スペイン語がわからないと思ったようで、予約なしで入ったので値段をいくりにしようかなどと相談している。

明日は土曜日で客が多いから少し値段を上げておこう、など 45 や 55 の数字が聞き取れた。私としては、今回は泊まれるだけでありがたいので少しくらい高くてもいい。我慢するしかないが、道路に面した窓の遮音が悪くないので外の騒音が気になること、隣室からの音漏れ、シャワールームが極端に狭い、トイレの流れが悪いなどいろいろ問題がある。それでもテーブルがあり、照明が明るいところはこれまでのホテルに比べて良い点である。

私から見ると、要するに客のいろいろな要望に配慮せず適当に作っているという感じで、日本のホテルと比べると不満な点が多い。明日はまずメンドーサ行きのバスのチケットを予約し、サンチアゴ市内を見て回ることにしよう。

2月15日 (土) サンチアゴ

明日乗る予定のメンドーサ行きのチケットを買うためにバスターミナルに足を運ぶ。重い荷物を持ってバスターミナルに来ても、満員で乗れなければ動きが取れないし計画が狂ってしまう。

そのため地下鉄に乗ってバスターミナルまで行き事前にチケットを買っておく。そうすることでターミナルの下見とアクセスにかかる時間などを知ることができる。すべてのことを自分でやるのは大変だが、それぞれの国のやりかた、仕組みや習慣を知ることができそれはそれで楽しい。

初め窓口が分からず 10 分ほど並んでいたのがムダになってしまった。その後教えてもらった列 (長蛇の列だった) に並び、1 時間かけてやっと明日 8:40 分発のメンドーサ行きのチケットを買うことができた。



空港やバスターミナルなど人の集まるところは治安が悪いと言われていているが、ここはそんな感じはなかった。ただ常に注意は必要だ。



サンチアゴのバスターミナル

地下鉄ユニベルシダー・デ・サンチアゴ駅からエロエス駅まで戻り、地下鉄 Line2 に乗換えてプエンテ・カル・イ・カント駅で下車しギガ市場に行ってみる。

ギガ市場は野菜、肉、魚などの店舗がひしめく市民のマーケットだ。見渡す限り店が続き一体いくつあるのか見当もつかない。チーズだけを売っている店でパルメザンチーズを2〜300グラム買ったかったが、切り売りはしないと断られてしまった。しかし、冷蔵ショーケースの中に切りかけが置いてあり、どう見ても切り売りしているはずなのだ。

全部見て回ると疲れてしまいそうなので、中央市場に行ってみる。中央市場は前にも来たことがあり、いろいろエピソードがあるのだが、その時と比べて随分変わってしまった。前はエリアごとに野菜、肉、魚など多くの店があり、新鮮な魚介類をたべさせるレストランは多くなかった。しかし、現在は全く逆転してしまった。今は、ほとんど観光客相手のきらびやかなレストランばかりだ。

観光客の増加とともに人気のあるレストランを増やし、もともとここにあった多くの店は新しく市場を作って移転したに違いない。それがギガ市場なのだ。

目の前にホタテやカニ、ウニなど新鮮な魚介類があるとヨダレが出てしまう。

本当は食べたいが、腹の具合が悪いので涙を飲んで我慢する。リマで食べた生ものが原因だとすると本当に悔やまれる。



中央市場内のレストラン



サンクリストバルの丘からの眺め

2本待って11時少し過ぎにケーブルカーに乗った。斜度30度くらいの急勾配を、途中動物園駅で停車し5分ほどで頂上に着いた。頂上からは360度サンチアゴの街が見渡せてとてもいい眺め。前に来た時よりスモッグが改善されたように感じる。そのころのサンチアゴの街はスモッグで悪名が知れ渡っていた。丘の頂上にはキリスト像があり聖歌隊の澄んだ歌声が流れてくる。キリスト像の足元に座ると、爽やかな風が吹き抜けてとても清々しい気分になった。

今日は土曜日でチケット売り場には長い列ができていた。チケットは2,600ペソのところ60歳以上は1,950ペソに割り引いてくれた。

次にサンクリストバルの丘に行ってみる。プエンテ・カル・イ・カント駅からサンタ・アナで乗換え、バケダーノ駅で下りる。

ピオ・ノノ通りをまっすぐ500メートルほど行くとケーブルカーの出発点がある。途中、チリ法科大学やサンセバスチアン大学があるところをみると、この辺りは文教地区なのかもしれない。

今日は土曜日でチケット売り場には長い列ができていた。チケットは2,600ペソのところ60歳以上は1,950ペソに割り引いてくれた。

2本待って11時少し過ぎにケーブルカーに乗った。斜度30度くらいの急勾配を、途中動物園駅で停車し5分ほどで頂上に着いた。頂上からは360度サンチアゴの街が見渡せてとてもいい眺め。前に来た時よりスモッグが改善されたように感じる。そのころのサンチアゴの街はスモッグで悪名が知れ渡っていた。丘の頂上にはキリスト像があり聖歌隊の澄んだ歌声が流れてくる。キリスト像の足元に座ると、爽やかな風が吹き抜けてとても清々しい気分になった。

まり、砂漠ゾーン、準砂漠ゾーン、地中海性気候ゾーン、温帯ゾーン、南部・パタゴニアゾーン、南極ゾーンというように気候帯ごとにその自然と生物の展示がされている。それほど専門的に詳しいわけではなく、教育用に重点を置いているように思われた。

キンタ・ノルマル駅からプラサ・デ・アルマス駅まで行き、アウマーダ通りを南に向かってずっと歩く。アウマーダ通りは歩行者天国になっていて、休日の



アルマス広場

に置こうとしたら、No sirve! (ノ・シルベ：コインはチップの用をなさない) と言われ、1,000ペソ札を要求され腹立たしかった。チップは小銭で10%ほどでよいのに、札でチップ渡さなければならぬ国とは!

ゆっくりアウマーダ通りを歩いたつもりだったが、すぐにオイギンス通りに出てしまった。オイギンス通りを左に行けばホテルだ。

プラサ・デ・アルマス駅からサンタ・ルシア駅までは、地下鉄に乗れば4駅あり途中で乗り換えなければならないが、歩いてみると距離はあまりないことがわかった。16時ホテルに戻る。

今日は予定していた、①メンドーサ行きバスの予約 ②中央市場・ベガ市場 ③サンクリストバルの丘 ④アウマーダ通り とすべて行くことができ満足だ。

これまで、ホテルは到着が夜遅くなるなど特別な場合以外は予約しなかったが、これからは事前に予約することにする。当日のホテル探しは予約した場合より値段が高いことが多いからだ。

まず明日のメンドーサのホテル、次にメンドーサからブエノスアイレス、ブエノスからモンテビデオのホテルを予約。ブエノスからモンテビデオへの交通手段はフェリーのつもりだったが飛行機にした。フェリーだと重い荷物を持って乗り換えるのが大変なためだ。

飛行機を予約するとeチケットの予約確認書をプリントアウトしなくてはならない。これがプリンターを持たない旅行者にとっては厄介な問題だ。泊まっているホテルに頼むしかないが、私としてはUSBメモリーやSDカードなどにデータを入れて渡せばいいと考えていた。しかしホテルには、予約用HPがありそこにあるメールアドレスにデータを送れば受信できるとのこと。それは簡単でいいアイデアということですがすぐデータを送ったが、フロントの人が要領を得ず、結局フロントのパソコンを使って自分で印刷した。旅先でどうしてもプリントができない場合、eチケットはどうなるのだろうか?空港のカウンターでは予約番号と便名と氏名が分かれば大丈夫なので、必要情報を書き出して分かるようにしてあれば良いはずだ。

南米の旅ではいつアクシデントが発生するかわからないので、何週間も先のフライトやホテルを予約しておくのはリスクが大きい。そのため必然的に予約を取りながら旅を進めることになるが、それはそれで



国立自然史博物館

せいかとても人通りが多い。

大道芸人のオンパレードで楽器や歌、パントマイム、曲芸師など、どれだけ人を集められるかが技の見せどころだ。小銭ばかり集まるのだが、チリでは500ペソがコインの最大で普通は100ペソが多い。500ペソで100円、100ペソで20円相当だから1,000円集めるのは大変だろう。

先日アリカのレストランで500ペソのコインをチップに置こうとしたら、No sirve! (ノ・シルベ：コインはチップの用をなさない) と言われ、1,000ペソ札を要求され腹立たしかった。チップは小銭で10%ほどでよいのに、札でチップ渡さなければならぬ国とは!



アウマーダ通り

結構大変なのである。モンテビデオまでの予約が確定して一安心。

腹の具合も大丈夫そうなので外に食事に出る。もう一度、今度は歩いて中央市場まで行ってみたが、時刻は19時頃でもう完全に閉まっていた。

市場は午前中が勝負でありそんなに遅くまで開いているはずはない。仕方ないのでホテルに戻りながら探すと、ホテルの直前で適当なレストランが見つかった。

そこでPaila Marina (パイラ・マリーナ: 魚介類と肉のスープ) を注文。このレストランのは、アサリより大形の貝とタラが中心でそれに牛肉が入ったものだった。ラーメンドングリくらいの大きさの容器で出てきて、久しぶりに腹一杯食べた。

腹の調子はほとんど戻ったようだ。ホテルに戻りメールの返事を書いていると、アッと言う間に12時を過ぎた。



パイラ・マリーナ